



## 愛媛県出身の大先輩がノーベル賞受賞

### 【好奇心が原動力】

10月7日の愛媛新聞に、2021年のノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎さんの母校（四国中央市立新宮小中学校、愛媛県立三島高等学校）で、大先輩の快挙に驚きと感動を覚え、自分の未来に夢と希望を膨らませる子供たちの様子が紹介されていました。

県内出身者の受賞というこの明るいニュースを、各学校や学級で話題にした先生も多いのではないのでしょうか。



好奇心とは、「珍しい物事、未知の事柄に対する興味」であり、これは子供たちの学びにおいても大変重要なものです。今、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現には、子供たちに動機となるものが必要で、この動機の中核をなすものが好奇心にほかなりません。

児童は本来、知的好奇心に富み、自ら課題を見付け、自ら学ぶ意欲をもった存在である。（中略）興味ある事象についての学習活動に取り組む児童は、納得するまで課題を追究し、本気になって考え続ける。

これは、小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）にある記述です。（中学校編にも同様の記述があります。）好奇心は本来子供たちの中に備わっているものです。我々教師の役割の一つに、子供たちから「なぜ？どうして？」「もっと知りたい！」との思いを引き出し、子供たちがそれぞれの課題に応じて「わくわく」「どきどき」しながら学べる環境を整えていくことがあります。そのような授業の積み重ねで、「約60年の研究の原動力は好奇心」と満面の笑みで語る真鍋さんのように、生涯学び続ける資質・能力を身に付け、未知の世界を自らの力で切り拓き、よりよい社会を創造することができる愛媛っ子の育成につながるのではないかと思います。

ぜひ、先生方には、子供たちのもつ本来の力を引き出し、それを支え、伸ばすような、楽しい授業の創造に努めていただけたらと思います。

## 令和2年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より

### 【暴力行為・いじめについて】

先日、標記の調査結果が公表されました。

愛媛県における暴力行為もいじめも、全国で最も低い出現率（1,000人当たりの発件（人）数）でした。これらは、日々、先生方が子供たちの抱える様々な問題の未然防止や早期発見に努め、必要に応じて関係機関と連携を図りながら一人一人に寄

り添った対策を講じていただいている成果の現れです。

11月18日には、県教育委員会の主催で県内全ての小学校6年生と中学校1年生を対象とした県内一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP! デイ」が開催されます。ぜひこの授業を、子供たち自身が主体的にいじめ防止について考え、話し合う場として活用し、引き続き、いじめの起きない学校づくりに努めていただきたいと思います。

R3 国公立の小中学校の調査結果（愛媛県）（ ）は前年度比

	認知の件(人)数	出現率(千人当たり)	全国順位
暴力行為	54件 (-30)	0.4件 (-0.2)	1
いじめ	1,649件 (-723)	11.6件 (-4.9)	1
不登校	1,814人 (+273)	11.7人 (+2.8)	12

### 【不登校について】

一方、不登校児童生徒数は全国の中では低い水準にありますが、県内の小・中学校では前年度より273人増えていました。学校現場では、実態に応じた適切な対応が求められます。

文部科学省は不登校児童生徒数の増加について、「一斉休校や分散登校などにより生活リズムが乱れやすく、学校行事なども制限され登校意欲がわかなかったのではないかと、コロナ禍による影響を指摘しています。この指摘は、本県の子供たちにも当てはまると推察され、コロナへの不安が未だ拭き切れない状況下にあって、各学校においては、今後ますます一人一人に寄り添った支援と、感染防止に配慮した魅力ある教育活動の推進に努める必要があります。

これまでもお知らせしてきたように県教育委員会では、不登校児童生徒一人一人の状態やニーズに応じた支援の在り方を検討するため、今年度から、県内3市で計4校の中学校を不登校対策モデル校に指定し、校内に生徒の居場所となるサポートルームを設置しています。この実践から得られた知見や課題を検証し、県内全市町と情報共有していきたいと考えています。

先生方には、引き続き、目の前の子供たちの実態に応じた御指導、御支援をよろしくお願いいたします。

